

2020年度の授業

受講者数は、131人でした。当初1クォーターのみの開講でしたが、受講希望者数が多かったため3クォーターにも追加開講し、1クォーターでは74人、3クォーターでは57人が受講しました。今年度も人数にばらつきがあるものの、すべての学部から学生が参加していました。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業となり、グループワークではなく、各自で地域課題に取り組みました。

各自が取り組んだ地域課題をいくつかご紹介します。

商店街における商業施設の衰退／地域の魅力の認知度の低さ／雇用の減少と地域外への若者の流出／少子化や晩婚化による出生率の低下／香川県での男性の育児／不登校の児童生徒の増加／地域の医療格差／農業人口の減少・農業の衰退／伝統工芸をはじめとした日本のものづくりの衰退／空き家の増加／地域の災害対策とその問題点／コロナ禍において稼ぐ地域をつくる

受講者の感想

- ◆ 本講義によって、問題解決能力が向上したように感じています。受講前は、地域社会の抱えている問題という大きな問題に対して、自分ができることは何であろうかという視点で考えていました。しかし、受講後は、本当に効果が見込まれると思われる策を何点か考え、その中で、自分ができることを考えるというように変わっていきました。（法学部1年生）
- ◆ 講義を通して地域活性化についての考えを深めることができました。具体的な地域課題の解決策を講義前後に考えることで、よりDRIという観点を理解するとともに、DRIから物事を捉えることの重要性を感じることができました。これから様々な経験を通してもっとDRI能力を身につけていきたいと考えています。（経済学部1年生）
- ◆ DRIは、現在でも多くの場面で地域問題を解決するために活用されていて、これから先もっと増えていくと思われます。また、DRIは、地域活性化以外にも、多くの場面で有効になるものだと思います。大学卒業後、どのような道に進んだとしても、この3つをよく理解し、活用していけるようになれば、自分の大きな力になると思います。（農学部1年生）